

2013年3月期 第2四半期決算 IR 説明会(2012/11/2 開催)

質疑応答内容

Q: 資産入替を今後も進めていくとのことだが、資産入替に伴う今期の特別損益をどのようにみたらよいか。

A: 期初に資産入替に伴う特別損益を▲100億円みていたが、既に保有株式の評価損で▲100億円強を計上しており、その一方で特別損益見通しが▲80億円に改善されていることに関して、なぜ資産入替に伴う▲100億円を追加で織り込んでいないのか、という趣旨のご質問であると理解した。資産入替の対象として、既に具体的な交渉に入っている案件がある。近々発表できることになると思うが、期初では、これら資産入替に伴う影響額を織り込んでいたが、現状の交渉状況からするとプラスが出ると見込まれることから、今期の特別損益見通しを▲80億円としている。

Q: 来期以降のバイオエタノール事業をどのように見たらよいか、教えてほしい。

A: 現在、9つの工場が完成しているが、その圧搾能力に見合うサトウキビの収穫が得られていない。現在は収穫するための畑を広げている段階で、現行の中計3ヵ年の間には、9つの工場をフルに稼働させる圧搾量を目指していく。今期は天候の影響もあり、計画していた圧搾量を下回ったが、畑を広げていることもあり、来期以降、圧搾量が増えていけば、損失もミニマイズできるとみている。

Q: ベネズエラの自動車事業の下期以降の業績をどのようにみているのか教えてほしい。

A: チャベス大統領が再選されたこともあり、状況は引き続き変わらないとみている。今期は、外貨決済による割当に一定の制限が設けられていることから、全体のエクスポージャーをマネージする必要がでてきた。従い、操業レベルに一定の制限を加えている。また、今後為替の調整が起こり得るとみており、為替の調整に伴う一時的な損失を織り込んでいる。

Q: 今回修正された業績予想について伺いたい。上期と下期の業界動向、事業環境をみると、下期の方が厳しくなっているが、下期の見通しは上期並みの計画を織り込んでいる。これは、かなり保守的な作り付けなのか、それとも一部期待値も織り込んでいるのか、教えてほしい。

A: 修正見通しに期待値が入っているか、ということについては入っていない。当初も事業環境は厳しさを増してくるだろうとの考えのもと策定しており、期待値を入れていたわけではない。ただ、金属資源の市況においては想定を上回る下落をみたほか、エネルギー関連の設備故障による生産量の一時的な減少は想定外であった。特に、石油・ガス市況が想定通りに推移しており、この生産量減少は極めて残念である。下期については、生産量の回復が見込めないこと、また、金属資源の期初想定価格と足元の価格との乖離を調整し、収益計画を大きく減少させた結果として、今回修正見通しを公表させて頂いている。

Q: 投融資計画と資産入替の関係について教えてほしい。期間収益も投融資計画の原資として考えられていたかと思うが、収益が想定通りに伸びてこない中で、現時点の投融資計画をどのようにみたらよいか。

A: 現時点で投融資計画を変更する予定はない。今期に保有株式の評価損を計上しているが、キャッシュ・フロー上では、計画通りのキャッシュ・フローを創出しており、投融資計画を変える必要はないと考えている。もちろん、今後も資産入替を行っていくし、やり遂げなければいけないものだと考えている。

Q: 本日の説明を総合すると、結果的に、今回は一時的な修正要因として、設備故障や一部の事業が想定通りではなかったということで、▲100億円～▲120億円の影響があったとのことだが、そうすると、双日の収益力は、今期経常利益修正見通し320億円に、一過性の影響額100～120億円を加えた450億円程度であると考えてもよいか？

A: そのようには考えていない。2013年度以降は、過去に投資した案件の生産が開始する。例えば、石炭については最終的に1,000万トンまで増やすという方向で、既に手を打っている。化学品では工業塩の収益貢献がスタートする。従い、一過性の要因による改善のみで終わるわけではない。過去の投融資からのリターンが見込まれ、またそれに対する期待感を持っている。

以上